

中部自治会防災ニュース

平成23年度 第7号(12月)

ごあいさつ:10月16日のいつとき避難場所避難訓練には、当地区の半分以上のご家庭の参加があり、いざというときに備えてのご近所同士の顔合わせができました。さて、今月からはしばらく「備えあれば憂いなし」として、災害への備えについて考えてみました。



よく自助袋とか非常持出袋とか言うが、災害に備えての準備品の場合、大きく2つに分けて考える必要があると思うのじゃ。すなわち、一つは家に留まれる場合だが電気・水道・ガスなどが止まりお店から物が消えてしまう場合、もう一つは火事や倒壊によって家を離れ地域防災拠点などに身を寄せなければならない場合じゃ。実際に家は大丈夫でも、不安で家に居れない場合もあると思うよ。自助袋や非常持出し品とは、本来火事や倒壊にみまわれて、急いで家を離れなければならない場合の、必要最低限の荷物ではないかな。家に入りが可能な場合の備蓄品とは別な考え方が必要と思うのじゃ。



家にも非常持出袋はあるけど、5~6年前買ったセット品だわ。



出来合い製品も良いが、ここは一つ自分の非常持出袋を作ってもらいたいものじゃ。下にわしの非常持出袋を紹介しよう。皆さんには次のページのリストを見て、よく考えて揃えてほしい。もちろん一人一袋じゃ。考えて作ることで自分が災害対策に大変役立つぞ。



鉄じいの非常持出袋の中身



一つは寝室のドアの横に

もう一つは外のプレハブ倉庫に

さあ、あなたも考えてみましょう！		横浜市の例	青葉区防災マップの例	某社セット例(8,700円)	鉄じいの場合	さあ、あなたです！	さあ、あなたです！
非常持出袋リスト							
水	水缶・ペットボトル 給水袋	●	●	●	○		
食料品	簡易食料(ゼリー飲料等) 乾パン	●	●	●	○		
食器用具	皿・コップ(紙・プラスチック)	●					
衣類等	帽子・ヘルメット 着替え一式 防寒シート	●	●		○		
清潔維持用品	トイレバック(携帯トイレ)	●			○		
	洗面用具	●			○		
	タオル	●		●	○		
	ティッシュ・ウエットティッシュ	●		●	○		
	マスク	●			○		
	生理用品			●			
医薬品等	常備薬(おくすり手帳)	●	●				
	救急セット		●	●	○		
小物類	携帯ラジオ(予備電池含む)	●	●		○		
	懐中電灯(予備電池含む)	●	●	●	○		
	携帯電話充電器	●			○		
	軍手	●	●	●	○		
	小型ナイフ		●				
	万能ナイフセット				○		
	缶きり(栓抜き)			●			
	はさみ・ピンセット			●			
	ビニール袋ポリ袋	●	●	●	○		
	筆記用具・メモ帳	●	●		○		
	マッチ、ライター			●	○		
	ローソク			●	○		
	ロープ			●	○		
	レジャーシート			●	○		
貴重品	現金(小銭も)	●	●				
	身分証明書	●	●				
	預金通帳、印鑑						
その他	予備眼鏡		●				
	近郊の地図		●				
必ず身に着ける物	高齢者・乳幼児・婦人・ベットの用品						
	入れ歯				△		
	携帯電話				△		
	財布(カード類・健康保険証)				△		
	腕時計				△		
	出来るだけ厚着・丈夫な靴				△		



わしは、まあ数日間山歩きでもするつもりで作ったのじゃ。そして、寝ても起きても携帯電話は常に身につけておくようにしている。また枕元には必ず財布(大銭小銭・カード類・健康保険証など)と懐中電灯を置いておく。また寝室には、靴やバールやハンマーや厚手の帽子なども用意してある。閉じ込められてはかなわんからな。そして何よりも非常持出袋はフックから下げておくことじゃな。



鉄じいの部屋には、懐中電灯、バール、なた、靴などがある



さて、10月16日におこなわれたいつとき避難場所避難訓練は、わしのところは昨年より多い会員さんが参加された。わしの避難場所は7つの班が使っておるが何と104名の参加があった。また各班長さんを中心に熱心に自己紹介や質疑応答などがされておったぞ。右にそのときの写真を紹介する。



当日は皆さまからアンケートもいただいておりました。自治会の理事の立場として報告させてください。お寄せいただいたアンケートは51件で、訓練が「良かった」と評価された方が44件。その他の方も否定的なご意見の方はいませんでした。具体的なご意見の内容について以下集約してみました。

隣近所と顔合わせ・情報ができた	36件
いざというときに役立つ、避難場所の確認ができた	16件
終了後参加した防災の集いが役に立った（医療・水）	6件
プラカードが分かりやすかった	4件
高齢者が近所と顔合わせができて安心した	4件
これからも実施してほしい	5件
事前の呼びかけや当日の進行など、班長さんに感謝する	13件



具体的な感想としては、以下のようなお声が寄せられました。

- *いざという時は何よりも地域の方々の協力が大切。避難訓練が良い機会になりました。
- *活動を通じて地域の交流を深めることの大切さを改めて思いました。
- *普段顔を合わせる機会が少ないご近所の方のお名前がわかって、とてもよかったです。
- *自己紹介でご近所の家族構成等の紹介があり、今までより親近感を感じました。
- *実際に何か起きた時にも、お声が掛けやすく、助けになるとおもいます。
- *特に高年齢の私どもとしては、地域の若い方々とご一緒させていただけるので、心強いと思っています。
- *訓練以降に引っ越していらっしゃる方もいるので、毎年訓練を続けていくことが大事なのではないかと思えます。
- *お陰様で、まさかの時のあわて方が少なくて済みそうです。
- *忘れがちな防災についての意識が改めて高まり、良かったです。
- *大災害発生の際、冷静に対処するには、この様な訓練を重ねておく必要があると思えます。
- *班長さんからは意義・目的などについて、きっちりの説明してもらいました。
- *プラカードが見やすく、よかったです。



アンケートでいただいた質問・要望・提案は次のようなものでした。

「いつとき避難場所避難訓練について」

- ・各避難場所に何人位避難してくるかの事前予測（昼・夜別、平日・週末別）をしてはどうか。
- ・「いつとき避難場所」での自己紹介の声が遠くの人には聞こえなかったのが残念だった。
- ・私の班の「いつとき避難場所」はグランドだが、広いのもっと具体的に場所を決めないといけないと思った。
- ・避難訓練の度に家族構成を報告しあうことは是非必要だと思った。
- ・ほとんどの近所の人々が来た貴重な時に、自分の名前だけでなくもう一言何か自己紹介してもらう方が良かったのではないかな。
- ・第3公園では雨があふれ、入れない日が数日あった。（そういう時の避難はどうするのか。）
- ・車いすの方はどのように避難すれば良いのか聞かれた。その方の「いつとき避難場所」は美小だが、もっと行きやすい場所がよいのではないかなと思った。

「地域防災拠点（美中・美小）について」

- ・応急手当やトリアージの説明を受けたのがよかった。ショックを受けた人々への対応等のお話も伺いたかった。
- ・避難場所における役割分担を決めておいてはどうか（毎年更新）。例えば医療関係従事者は救護要員として登録しておくなど。（当日では混乱は避けられないと思います。）
- ・備蓄庫には素人ではすぐ使用できない装備があるようだ。エンジンカッターや油圧ジャッキ等は救出に必要と思われるので、上項で救出要員に要録された住民には定期的に訓練を実施するのはどうか。
- ・避難場所の運営は他人（行政）に頼るのではなく、住民自身が運営を担うことを住民に意識させる必要があると思った。
- ・防災拠点の備蓄庫からの搬出は大変なので、若い力の支援を望む。
- ・美小・美東小・美中に避難する人数は平均的になるように割り振られているのか。また、もし全員が避難場所に来たとき、収容できるのかが心配だ。
- ・地域防災拠点でもある美小が、班の「いつとき避難場所」でもある。美小には入りきれないのでとの声があった。

「その他について」

- ・送電線は倒れないのかと聞かれた。
- ・年齢かつ距離的にも美中（地域防災拠点）まで坂道を上って行くことは、隣人同士そして家族だけでも困難だと感じる方もいると思う。災害後、物事が少し落ち着くまで家に残り、目立つところにパネルのようなものをつるし、そこに在宅人数や必要とする援助物資の内容等を書き込むようなことはできないか。（ただし、留守を狙う犯罪を伴うかも知れないので、その方法がいいかわからないが。）
- ・各家庭で日頃からどのような対策をすればいいかの情報を伝えて頂きたい。特に、①家族の状況（？）②医療と必要なもの③避難先等。
- ・火災の発生が怖いので、災害時に避難する場合、各々が「ブレーカーを落としてから避難する」よう徹底していただきたい。



訓練に参加された会員の方のアンケートへのご協力に感謝申し上げます。皆さまのご要望を検討して、今後もよりよい「防災・減災」を目指していきたいと思えます。



様々なご意見は有り難いものじゃ。是非、来年も有意義な訓練となるようしていきたいな。さて、次号からは、家に居れるときの対策すなわち「備蓄」について考えてみたい。また家の耐震化や家具・家財の転倒散乱防止についても知っておきたいものじゃ。